

地域発新規参入組②

富山水素エネルギー促進協議会

地元ガスディーラーが行政、企業と連携し念願のステーション設置

富山水素エネルギー促進協議会は北陸3県初となる商用水素ステーションを今年3月7日、富山市で開所した。同協議会は同県を中心に産業ガス供給事業を営む北酸が運営している。水素に関する勉強会や水素先進県への視察会等を行いながら、県内に水素ステーションを設置することを目標に取り組んできた。そしてついにその念願が叶った。同協議会で理事を務める北酸の山口昌広社長にステーション設置までの道のりを聞いた。

協議会設立のきっかけは北酸が開催した水素セミナー

富山水素エネルギー促進協議会は、富山県に水素エネルギーを呼び込むことを目的として、富山ガスディーラーの北酸が発起人となり16年2月に設立した。会員数は正会員・オブザーバー会員あわせ60社である。県内への水素ステーション設置を第一目標に掲げてきた。同協議会設立のきっかけは北酸

が14年に独自で開催した水素セミナーである。

「県民が水素に関心を持つきっかけになればと思い、セミナー開催を決めた。当時、MIRAIIの一般発売が始まったばかりで水素エネルギーに関心を持つ人も少ないだろうと考えており、初開催ということで地元紙にタイアップを依頼。セミナー開催予告や採録記事を書いてもらった」。広告効果は絶大で定員150名を超



える208名が来場し、大きな反響を得た。定期的な勉強会を求める声や行政、金融機関等幅広い業界から後押しがあったことで同社は日本海ガス、富山トヨタ自動車と共に16年2月に同協議会を設立した。当時はG7環境大臣会合が富山県で開催されることが決まっており、設立後すぐに富山県、富山市から会合に合わせた水素シンポジウムを開催しないかという流れになった。同会合はG7

及びEUの環境対応大臣らが出席し、国際社会が直面する主要な環境問題について意見交換を行うことを目的としている。富山県内で16年5月15日、16日に開催される予定で、それに先立ち同月11日に水素シンポジウムを同協議会で行うというもの。

シンポジウムの後援に富山県、富山市、環境省、中部経済産業局、富山大学、北日本新聞、G7富山環境大臣会合等推進協力委員会らがつき、FCVや水素ステーション設置状況についてトヨタ自動車、神戸製鋼所ら関連メーカーが講演した。定員200名のところ、県内外から240名が集まった。シンポジウムの開催や同協議会による地道な営業活動が奏功し、会員企業は16年末時点で既に40社となった。協議会設立から半年で現会員の8割が集まったのだ。

「富山県民は全国的に見てもエコカー普及率が高く、メーカーも多いことからものづくりを通して環境保全活動したいとする企業が多い。そこに新エネルギーである水素が合致したのでしよう。当協議会が掲げる、地元企業で水素インフラを整えるというコンセプトにも賛同頂いた結果だと考えている」。

NeV補助対象地域は四大都市とその周辺、富山は対象外

を得た。この他にも「SDGsモデル都市にふさわしい」という反響があったという。

FCごみ収集車は自動車改造メーカーのフラットフィールドが従来のディーゼルごみ収集車から改造したものの。水素充填は東芝エネルギーシステムズの再エネ水素ステーション「H2One ST Unit」を使用する。設置、運営は同協議会が担当した。

なお、設置したステーションは同事業の他、富山市や同協議会が所有するFCVの充填拠点としても用いられる。

導入された「H2One ST Unit」は再エネ由来電気をを用いて水素を製造、FCVへの充填まで行うパッケージ型水素ステーションである。1時間あたり2Nm³水素製造可能で1日あたり8台のFCVへ充填出来る。充填は予約制で同協議会が行う。ユニット設備には水電解式水素発生装置(神鋼環境ソリューション製)、圧縮機(ハイドロパック製)2基、200L蓄圧器(サムテック製)3本、デイスベンサー(タツノ製)が搭載されている。

「県内に2ヶ所の水素ステーションが出来たことでこれまで関わりのなかった企業も当協議会に関心を寄せるようになった。当社が始めた水素の輪をどれだけ広げていけるか。これからの活動指針はそこに尽きるだろう」。

ション設置を進めていくとしている。これに伴いNeVでも「自治体の水素社会実現に向けて協力的であるかどうか」を一つの参考資料とし、補助対象を地方都市にも拡大した。同協議会設立から3年後の19年4月、ついに富山県への商用水素ステーション設置が決まった。

北陸3県で初となる商用水素ステーション3月9日から運用開始

同協議会は北陸3県で初、全国114ヶ所目となる商用水素ステーションを富山市内に開所し、3月9日から運用を開始した。開所したオフサイト式「水素ステーションとやま」は北酸の子会社である北酸物流(富山市上富居1丁目3番69号)敷地内に設置されたもの。この敷地は20年前までLPガス自動車に燃料充填するLPガススタンドとして使っていた。同スタンド閉鎖後はローリー置き場としており、今回新たに水素ステーションとしてリニューアルした。水素ステーション総工事は非公開としているが、国、県、市からそれぞれ補助を受けている。

供給設備には、圧縮機、蓄圧器、デイスベンサーをユニット化した岩谷産業のパッケージ型水素ステーションを用いている。水素は北酸高岡工場の副生水素をカードルで運ぶ。水素価格は現



同協議会理事、北酸山口社長

順調な滑り出しだった同協議会だが、水素ステーション設置は簡単なものではなかった。協議会設置当時、商用水素ステーション設置補助事業であるNeVの「燃料電池自動車用燃料供給設備設置補助事業」は4大都市圏とそれらを繋ぐ地域のみを補助交付対象としていた。富山県はこれら地域には含まれないため、協議会設置のタイミングで設置しても補助を受けることが出来なかった。

「国としては4大都市圏をFCVで移動出来るよう、地域を限定して設置を進めたかったでしょう。地方都市は2020年度以降補助対象とするとわかれていたが、具体的な話が見えてこなかった。当協議会は行政と協力し、経産省に補助を行ってもらえないか交渉を続けていた」。

そんな折、線から面に水素ステーション普及を進めるため水素・燃料電池戦略ロードマップが改訂された。ロードマップでは水素ステーション普及を目的としたJHYMが中心となり、4大都市圏以外での水素ステ



FCごみ収集車

地ガソリン価格を考慮し、14000〜15000円/kg。また、水素充填は同協議会ホームページからの予約制で、北酸従業員が充填する。**水素ステーション設置後はFCV普及を目指す** 目標として掲げていた水素ステーション設置を終えた今、次なる目標はFCV普及率を上げることだ。その一環として同協議会は富山市と共同でFCごみ収集車の走行試験を3月初旬から2週間行なった。同事業は富山市が運営するごみ処理場の富山市環境センターに太陽光発電設備と小型再エネ水素ステーションを設置し、ごみ収集車の走行や運用試験を行うもの。生活に密着しているごみ収集車のFC車両を運用することで市民に水素を身近に感じてもらうことを目的としている。運用したことにより「水素を身近に感じた」といった感想